

「わくわくファクトリー」の様子。社内委員会が創意工夫を重ねた。



主に中型・鑄造プレス組立が行われる衆生工場。入口には、社員の顔写真付きの一言メッセージ。

職場の基盤として コミュニケーションを重視。 チームワークの良い職場へ

株式会社鈴木鉄工

社員とその家族へ感謝を込めて 家族参観日の開催

プレス機など産業機械を設計・製造する株式会社鈴木鉄工。大型の一品ものを得意とし、長年培ってきた職人技が強みのモノづくり集団だ。60歳以上のベテラン社員が活躍する中、若手社員への技術継承を進めるため、ベテラン社員の技術をデータ化・自動化したロボット等、最先端の機械を導入することで、技術継承とともに生産性の向上も図っている。しかし、ベテラン社員の技術の全てをデータ化・自動化することは困難であり、鈴木敏夫代表取締役社長は「当社の強みである職人技を継承するためには、世代を越えて社員同士の関わりを密にしなければならない。そもそも、大型機械の製造はチームで協力しながら作業を進める必要がある。その土台として大切なことは社員同士のチームワークを高めるためのコミュニケーション」と強調し、コミュニケーションの活性化に取り組む。

その一つが、創業55周年を記念して、2018年10月に2年ぶりに開催した家族参観日「わくわくファクトリー」だ。日頃の

感謝の気持ちを込めて、社員とその家族を工場に招き、職場を思い切り楽しみながら知ってもらうという企画だ。家族参観日を考案したきっかけは、新入社員の両親が、わが子の働いている職場の様子を知りたいと、工場の周りを歩き回っていたところに、鈴木社長が出くわしたことだった。「社員の家族に会社を知ってもらうだけでなく、社員同士が職場とは違うそれぞれの一面を知ること、交流を深め、互いに気遣いができるようになれば」と話す。ほかにも、工場を含めた各部署に、社員の顔写真に一言メッセージを添えて貼り出す等、社員同士が親密になれるよう工夫を凝らしている。

さらに、2018年10月に総合アドバイザーの渥美由喜さんによるコミュニケーション研修を社内で開催。「『一人ひとりの家庭等のプライベートや心身の状態を酌もう』というアドバイスが印象に残っており、人間らしい繋がりのある会社になりたい」と鈴木社長は話す。

社員の「成長」を導く 改善提案制度

鈴木社長は自身が入社した約20年前から、「社員により良い職場環境を提供したい」という思いで、社員とともに試行錯誤しながら改善活動を続けてきた。これまで平日の午前・午後それぞれの休憩時間を5分から10分にしたほか、2018年4月からは週休2日制を導入した。「職場は一朝一夕には変わらない。小さな改善を何年も地道に続けることで、振り返ってみると少し変

化を感じられる」と鈴木社長は話す。こうした考えから、役職者中心で取り組む部署ごとの改善活動に加え、全社員参加型の「ミクロ改善活動」を実施。各部署に2グループがあり、合計14のグループが、働きやすい職場を作るため、職場の身近な問題、困り事、無駄を見つけ、その解決策を記載した「改善提案書」を毎週1件提出する。導入した当初は会社への要望ばかりで何も進まなかったが、「『職場のごみを拾う』といった小さな取り組みでも構わない」と社員に発信し続け、今では、「自ら問題を発見し、自分達で解決しよう」という熱意のある提案が年間600件も出ている。改善提案の内容によっては、役職者による審査を踏まえ、予算を活用できる。さらに、年1回、原因追及や対策的確さなどを評価し、優れた改善提案の表彰も実施。「小さな取り組みであっても『私が提案してやり遂げた』という自信を社員に持ってほしい。当社の改善活動は、『自ら考え行動する人材に成長してもらおう』という人材育成の側面を重視している」と鈴木社長は話す。

同社は、「コミュニケーション」と「人材育成」の両輪で、10年、20年先を見据えた取り組みを進めていく。



製品は硬いが雰囲気は柔らかく。チームワークの良い会社を目指す株式会社鈴木鉄工。

DATE

所在地 能美市衆生町西2-3

代表者 鈴木 敏夫

設立 1963年

従業員数

141名(男:126名/女:15名)

事業内容

プレス機械およびその部品・周辺装置の製造・組立